

単元目標 評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉える。

評論1「世界をつくり替えるために」 小林康夫 (標準学習時間 4時間)

目標 学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。

【第一時間目】

目標 本文の概略を把握し、第一段を理解する。

1 目標を確認した上で、音読をして概要をつかもう。

① 四つの意味段落で述べられている筆者の考えを押さえながら、本文を通読する。

② 読めない漢字、意味のわからない語句、疑問に思ったところ、重要だと思われるところに線を引きながら読む。

2 読めなかった語句、意味のわからない語句等について調べる。

① 読めない漢字は辞書等で調べて教科書に書きこむ。

② 意味のわからない語句・重要語句も辞書で調べてノートに書く。

例 p 8・5 行目 「路傍」

p 11・12 行目 「正視」

p 12・9 行目 「コンテキスト」

p 13・14 行目 「無味乾燥」

3 第一段を熟読し以下の板書事項をノートに書く。空欄は各自埋めること。

自由に空を飛ぶ(①) () ↑自由に生きられない(②) ()

自分と世界の(③) () の感覚

強い(④) () 感

← 学ぶことの(⑤) ()

未来の(⑥) () を生み出す起点

4 比喩の表す意味を読み取りノートに書く。(新国語便覧参照)

p 8・11 行目 「鳥が空を飛んでいるように」 「比喩」(⑦) () 喩

・「鳥が周囲の世界に溶け込み、違和感なく(⑧) () と調和して生きている」ことを表している。

5 指示語の意味するところを考えてノートに書く。

p 9・5 行目 「こうした感覚」「この感覚」

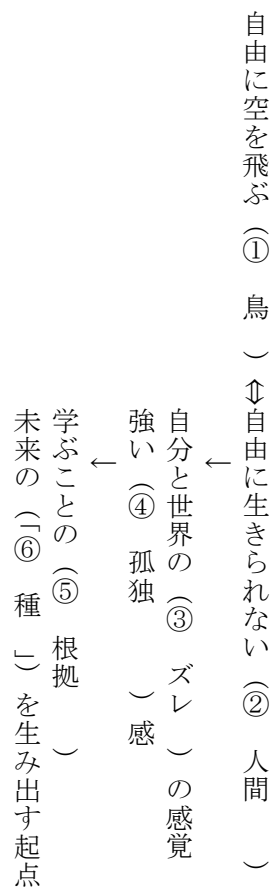
感覚

6 第一段落の要旨をノートに書く。

7 解答解説プリントで第一段の確認をして、理解を深める。

解答解説プリント

3 板書事項



4 比喩表現

p 8・11行目「鳥が空を飛んでいるように」 「比喩」(⑦ 直)喩
・「鳥が周囲の世界に溶け込み、違和感なく(⑧ 自然)」と調和して生きている」

5 指示語

p 9・5行目「こうした感覚」「この感覚」
例・自分と世界との宿命的なズレによる「自分一人でここに生きている。」という感覚。

6 要旨

例・自分と世界との間に宿命的なズレを感じることは、学ぶことの根拠に触れているあかしであり、それがあらゆる未来の種を生み出す起点となる。

「解説」(比喩にはいろいろな技法がある。詳しくは新国語便覧で確認しておこう)

①直喩(明喩)

「まるで〴〵のように(な)」 「例えば〴〵のごとく」といった語句を用いてたとえる方法
例 まるでりんごのような頬だ

②隠喩(暗喩)

「まるで〴〵のように(な)」などの語句を用いずたとえるものを暗示的に示す表現技法
例 あなたの笑顔は太陽だ

③擬人法

人間以外のものを人間にたとえる表現技法
例 列車はあえぎながら坂を上った

④声喩

物の音やことがらの様子を音声で表す表現技法
ア 擬声語(擬音語) 例 雷がゴロゴロ鳴った
イ 擬態語 例 背筋をスツと伸ばしている

⑤諷喩(寓喩)

本来に言いたい事柄を表面に出さず、ほかの事柄にかこつけて表現する技法
例 朱に交われば赤くなる(人は交際する友人に感化されるものだという比喩)